



慈しみを愛すること

暗唱
聖句

「光は正しい者のために暗黒の中にもあらわれる。主は恵み深く、あわれみに満ち、正しくいらせられる。恵みを施し、貸すことをなし、その事を正しく行う人はさいわいである」

(詩篇 112: 4、5、口語訳)

「まっすぐな人には闇の中にも光が昇る／憐れみに富み、情け深く、正しい光が。憐れみ深く、貸し与える人は良い人。裁き
のとき、彼の言葉は支えられる」(詩編 112: 4、5、新共同訳)

今週の
聖句

マタイ 6: 25～33、ヤコブ 1: 5～8、2: 15、16、イザヤ 52: 7、
Iヨハネ 3: 16～18、イザヤ 58: 1～10

安息日
午後
9/14

今週のテーマ

すでに触れたように、聖書は、貧しく虐げられた人々への神の気遣いに関する情熱的な記述とともに、彼らのために働きなさいという、御自分の民への呼びかけであふれています。こういった問題に注意が払われているにもかかわらず、聖書のこの命令は、散発的かつ部分的に実行されてきたにすぎません。また、それが完全に果たされるのは、キリストの帰還とそのあとに続く超自然的な出来事によってでしょう。

その時まで、悪はさまざまな形で存続し、悪魔や悪天使たちの闇の霊的影響力によって助長されます。このような悪は、しばしば貧困、暴力、抑圧、隷属、搾取、利己心、貪欲などにおいて最も顕在化します。そういう世界の中で、私たちの地域社会、教会、家庭は、時としていかに困難であろうと、このような悪に立ち向かわねばなりません。私たちは神の愛と命令に応じて、イエスの奉仕と犠牲の光の中を生き、聖霊の御臨在によって力づけられ、導かれながら、「正義を行い、慈しみを愛し／へりくだって神と共に歩む」(ミカ 6: 8) ことにおいて憐れみ深く、創造的かつ勇敢でなければならないのです。

イエスと新約聖書の記者たちの教えの中で明らかにされているように、神の国の一員として生きることを選ぶ人たちは、この世とは異なる一連の価値観や優先順位に従って生きます。

問1 マタイ 6：25～34 を読んでください。これらの聖句で私たちに与えられている保証から、私たちの優先順位にどのような影響を受けますか。

イエスは、「命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切ではないか」（マタイ 6：25）と教えられました。言うまでもなく、これらの物も大切ですが、私たちはそれらを神の国の光に照らしてみなければなりません。つまり、私たちは人生の優先順位を、現実的かつ実際のな形で見直さなければならないということです。他者を高く上げ、大事にしろという呼びかけが聖書の至る所にあることを認めるとき、この呼びかけは、私たちがイエスの足跡をたどろうとする際の優先事項の一つにもなります。理想的には、この呼びかけによって、私たちは自分自身よりも他者に目を向けるようになるべきです。

この異なる一連の優先順位は、私たちや虐げられた人たちに対して権力を持つ人と私たちとの関係をも変えます。聖書はクリスチャンに、可能な限り政府を尊重し、それに従うようにと教えていますが（例えば、ロマ 13：1～7 参照）、その一方で、私たちにはペトロの言葉をおうむ返しに言わねばならない時もあります——「人間に従うよりも、神に従わなくてはなりません」（使徒 5：29）。イエスは、この問題で彼をわなに掛けようとした人たちに対する答えの中で、これら二つの原則のバランスを取られました——「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい」（マタイ 22：21）。

政府であれ、何であれ、権力を持つ人たちは、しばしば脅迫や圧力によってその権力を行使し、維持します。イエスの人生に見られるように、誠実に生きることは必ずしも、またあらゆる状況で、悪を前にして無抵抗を要求するわけではありません。例えば、エレン・G・ホワイトはアメリカにおける奴隷制度を取り上げて、次のように書いています。「人間の法律が神の言葉や律法と対立するとき、たとえどんな結果になろうとも、わたしたちは後者に従うべきです。わが国の律法は、奴隷をその主人に引き渡すようにと要求しています。わたしたちは従うべきではありません。すると、わたしたちはこの法律に違反した結果を負わねばなりません。奴隷はいかなる人の所有物でもありません。神が奴隷の正当な主人です。人間には、神が創造された作品を自分の手中に収め、自分のものだと主張する権利はありません」（『教会への証』第1巻分冊1、211 ページ）。

私たちの善意が「この世のあらゆる苦難」によって圧倒される可能性に^{あらが}抗いながら、私たちの多くは、苦しんでいる人たちの生活に変化をもたらすためにもっと多くのことをしたい、と願っています。困窮している人たちに前向きな対応をするうえで役に立つ心の姿勢や行動がいろいろあります。

共感——すでに触れたように、傷ついている人の苦痛に気づき、共感することが行動への第一歩です。私たちは苦しみに対する感受性を育み、維持する必要があります。今日、人々は「共感疲労」を話題にします。「共感疲労」とは、私たちがあまりにも悲しみや悲劇にさらされると、私たちの多くが感情的エネルギーや経済的支援を必要とする多くの要因にうんざりしてしまうというものです。イエスは周囲の悪や苦痛をはっきり認識しておられましたが、思いやりを持ち続けられました。私たちもそうでなければなりません。

教育——不公正や貧困の多くの状況は複雑なので、それらの状況について可能な限り耳を傾け、学ぶことは重要です。助けようとして、ほかの人の生活に損害を与えてしまった善意の人たちの実例が、これまでたくさんありました。これは何もしないことの言い訳になりませんが、私たちは情報に基づいた思慮深い方法で関わろうとすべきです。

祈り——問題を目にしたとき、私たちが最初に考えるのは、「实际的な」行動を取ることです。しかし聖書は、祈りが实际的であることを私たちに思い起こさせます。私たちは、貧しく虐げられた人たちと彼らを支配する人たちのために祈るとともに（1テモ2:1、2参照）、助けを提供するうえで最善の対応ができるように神の導きを尋ね求めることによって（箴2:7、8参照）、貧しく虐げられた人たちの生活に変化をもたらすことができるのです。

期待——苦しみを和らげるために働くうえでのもう一つの重要な要素は、社会的、政治的、個人的状況の複雑さを考慮して、適度な期待を抱くことです。私たちの望みは、（私たちが与えなければ得られない）選択肢と機会を人々に与えることであるべきです。時として、そのような機会を用いて人々がすることは、私たちが失望させるかもしれませんが、私たちは彼らの選択を尊重しなければなりません。苦しんでいる人たちのために、私たちがどのような方法で働くことにしても、私たちの指針は、「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」（マタ7:12）であるべきです。

問2 ヤコブ1:5～8を読んでください。クリスチャンにとって、祈りはどのような役割を果たしますか。ヤコブ2:15、16は、他者のための私たちの祈りに、私たちがどう貢献できるかについて、どのような示唆を与えていますか。

「喜んで与える人を神は愛してくださる」(Ⅱコリ9:7)。惜しみなく与えることは、クリスチャン生活の重要な側面です。私たちは聖書から施すことや経済的優先順位に挑戦を受けるべきですが、惜しまないことというのは、(たとえどれほどの額であろうと)単にお金を何かの目的のために投じること以上のものです。

それどころか、惜しまないことは、最も重要な態度であり、詩編112編で述べられているように、「主を畏れる人」の鍵となる性質なのです——「恵みを施し、貸すことをなし、その事を正しく行う人はさいわいである」(詩篇112:5、口語訳)。

問3 次の聖句は、困っている人たちへの寛大さについて、何を教えていますか(レビ25:35～37、詩編119:36、Ⅱコリ8:12～15、Ⅰヨハ3:16～18、Ⅰテモ6:17～19)。

パウロは新約聖書の書簡の中で、(私たちのためにイエスが命をささげてくださったことに最もよくあらわれている)神の寛大さをクリスチャンの希望の源として繰り返し挙げています。同様に、私たちのためのイエスの死が、他者に対して私たちが寛大な生き方をする動機でもありました——「わたしたちの間でキリストのためになされているすべての善いことを、あなたが知り、あなたの信仰の交わりが活発になるようにと祈っています」(フィレ1:6)。

寛大さは、気前の良い、大胆で、包容的な人生を送る態度です。私たちの個人的生活、社会、文化の中のあまりにも多くのものが、自分自身に目を向け、可能な限り多くを自分自身のものにするようにと促します。現実を認めましょう。ほとんどの人の初期状態は、通常、とにかく「自分」「自分」「自分」なのです。

もしそれが現実であるなら、私たちの信仰は、自己に死に、他者のためにもっと生きるように私たちをさせるでしょう。私たちの信仰は、神がこの世界とそこに住む人々をご覧になるように、その良さにおいても壊れ具合においても、私たちがそれらを思い描く助けとなります。また信仰は、可能な限り、困窮している人たちに助けようと私たちを駆り立てるのです。

寛大さは、資金集めの担当者や慈善団体から喜ばれます。そのような寛大さは測定可能であり、まさに実際のです。しかし、大きな寄付が必ずしも寛大な生き方を示しているとは限りません(マコ12:41～44)。寛大な生き方というのは、いかなる寄付よりも大きく、価値のあるものです。私たちは、自分が行うあらゆることにおいて、寛大な精神を高く評価し、養う必要があります。ほとんどの人にとって、寛大さは生まれつきのものではありません。それは、私たちの罪深く、利己的な人間性の強さにかかわらず、私たちが自分の生活の中で積極的かつ意図的にあらわす恵みなのです。

問4 マタイ5:9を読んでください。私たちが生きている世界で、イエスがここで言うておられることを実行できるでしょうか（マコ13:7参照）。

暴力的衝突は苦しみの大きな原因です。戦争で失われるものには、直接的な犠牲者や破綻した生活、（人間のほかの必要を軽減するためによりよく転用されたはずの）軍事機器に向けられた注意や資源、「勝者」の中においてさえ戦争の生存者や兵役体験者たちに持続する苦しみなどが含まれます。そして家庭や地域社会の中で、数えきれないほどの人生を傷つける、もっと小さな衝突もたくさんあります。従って、正義を求める熱意は、平和を実現しなさいという命令を無視することができません。

イエスの福音の中心にあるのは、平和を実現するという神の恵み深く崇高な行為、つまり罪深い人類をその創造者と和解させることです（Ⅱコリ5:18～21参照）。そして、私たちが受ける和解が、この和解を他者にも届ける「使者」となるための手本となるのです。

問5 イザヤ52:7を読んでください。私たちはこの聖句をどのように実現したらよいのでしょうか。

平和の福音は、私たちの暴力的な世界で平和のために働くことの動機、手本、資源にもなります。「神と調和している心は、天の平和の共有者である。そして周囲のすべての者に、その祝福された感化を及ぼすのである。平和の精神は、世の争いに疲れ、悩む人々の心に、露のようにとどまる」（『希望への光』1135ページ、『思い煩ってはいけません』36ページ）。

山上の説教において、「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる」（マタ5:9）と、イエスは言われました。彼はこれをさらに推し進めて、殺すなかれという掟を支持するだけでなく、私たちは怒ったり、恨んだりすべきでなく（同5:21～26参照）、敵を愛し、私たちが迫害する者たちのために祈るべきである（同5:43～48参照）とおっしゃいました。つまり、彼らの幸福を求める積極的な手段を講じるべきだということです。世界の紛争地域における平和の実現のために献身した人たちの感動的な話がたくさんあります。彼らは、和解といやしの片鱗を示し、しばしばこういった紛争がもたらした不公正や苦しみの多くを軽減してきました。

◆ あなたの所属教会は、平和を実現するものとしての役割を、地域でいかに果たすことができますか。

ソロモンは、「黙する時、語る時」(コヘ3:7)がある、と書きました。彼の言うとおりであり、そのバランスを取ることは、だれにとっても簡単ではありません。しかし、虐げられた人たちのために語り、黙っている人たちのために声となり、善をもって悪に勝とうとすることに関して言えば、教会としての私たちは、声を上げるべきだったときに黙りすぎる失敗を犯した可能性はないでしょうか。

クリスチャンはこれまで、イエスの手足となることについてしばしば語り、イエスが私たちに望まれるように他者のために実際の奉仕をすることに言及してきました。しかし聖書で明らかにされているように、預言者の役割において神の第一の命令は、神の声になること——そして神のために、また神が守りたいと望んでおられる人たちのために語ることです(詩編146:6～10参照)。

問6 イザヤ58:1～10を読んでください。イザヤがこれを書いた時代から今日の現代に至るまでに、どれほど実際に変わりましたか。

正義を求める預言者たちの声は、人気取りの方法などでは決してありませんでした。しかしこれらの預言者は、神からの命令に突き動かされ、正義に対する神の熱意を理解し、貧しく虐げられた人たちの苦境に同情し、彼らの社会にとっての最善を求めて、反対や不快や危険をよそに、彼らの時代の黙っている人たちのために、あえて声となったのでした(1ペト3:17参照)。

私たちの福音理解と、イエスをこの世に反映するようという召しに基づいて、セブンスデー・アドベンチストもまた、この世の悪に対処することに関して提供すべき良いものをたくさん持っています。

従って、「セブンスデー・アドベンチストは、貧困とそれに伴う不公正を減らすための行動が、クリスチャンの社会的責任の重要な一部である」と考える。聖書は、貧しい人たちに対する神の特別な関心と、神に従う者たちが自分では身のまわりのことができない人たちにどう応じるべきかということへの神の期待を明らかにしている。人間はみな、神のかたちを有し、神の祝福の受け手である(ルカ6:20)。貧しい人たちとともに働くとき、私たちはイエスの模範と教えに従う(マタ25:35、36)。霊的共同体としてセブンスデー・アドベンチストは、貧しい人たちのために正義を擁護し、『黙っている人のために……口を開(き)』(箴31:8、口語訳)、『貧しい者から権利を奪(う)』(イザ10:2)人たちに反対する。私たちは、『乏しい人のために裁きをしてください』(詩編140:13〔口語訳140:12〕)神に協力するのである」(『世界的貧困に関するセブンスデー・アドベンチスト公式声明文』2010年6月24日、英文)。

参考資料として、『ミニストリー・オブ・ヒーリング 2005』第43章「さらに高度な体験」を読んでください。

「天と地のどこをさがしてみても、わたしたちの同情と助けを必要とする人々に対する憐れみの行為にあらわされるもの以上に、力強い真理はあらわされていない。これは、イエスのうちにある真理である。キリストの名をとなえる人々が、黄金律の原則を実行する時、使徒時代に見られた同じ力が福音に伴うだろう」（『希望への光』1181 ページ、『思い煩ってはいけません』181 ページ）。

「神に対する最高の愛、互いの無我の愛、これこそ、天父がさずけて下さる最上の贈物である。この愛は衝動ではなく、きよい原則、永遠の力である。献身していない心は愛を起すことも、生じることもできない。イエスに支配されている心だけに愛は見いだされる。……心に抱かれたこの愛は、人生を麗しくし、清澄にする感化を周囲に与える」（同上 1566 ページ、『患難から栄光へ』254、255 ページ）。

話し合いのための質問

- ① 意見を述べる機会のない人たちのために声をあげること、平和の実現に携わることや活動は、私たちを公の場や政治の舞台に引きずり込むかもしれません。しかしセブンスデー・アドベンチスト教会は、教会と国家の分離をずっと支持してきました。政治に不適切に関与することと、公的な形で平和を実現するためにはっきりものを言い、働くこととは、どう違いますか。
- ② 今週の研究の中で話し合った措置や行動で、あなたが自分の生活や近隣社会に取り入れたいと思うものは何ですか。どうしたらそれを実現できますか。
- ③ 地域社会や、世界における悪や抑圧の問題であなたが祈ろうと心に決めたのは、どのような問題ですか。

まとめ

イエスに従う者となることは、いろいろな意味でああなたの人生を変えるでしょう。そこには、貧しく虐げられた人々に対する神の積極的な気遣いに加わろうという熱意が私たちの中に生じることも含まれます。それは簡単なことでも、人気のあることでもありませんが、私たちの優先順位を変え、周囲の世界の傷をいやすために積極的な措置を講じようと私たちを駆り立てるでしょう。